

# 正課外活動参加者のキャリア育成状況

## —「山口大学おもしろプロジェクト」参加者による自己評価に基づいて—

辻 多 聞

### 要旨

正課外活動「山口大学おもしろプロジェクト」の参加者に「山口大学生コンピテンシー」の達成度に関して調査を行った。すべての項目において、ある程度できている、という結果であった。また「出会いと交流」，「自分を活かす力」，「驚き」の3項目は他の項目と比較して高くなる傾向にあった。「専門分野を超えて考え行動する力」に関しては1年間で成長の変化があることが明らかとなった。調査結果を社会人基礎力の要素に変換してキャリア育成の状況を判断したところ、「働きかけ力」，「規律性」，「主体性」，「実行力」，「発信力」に関しては他の要素と比較して高いと自己認識できるようである。また、「創造力」，「傾聴力」，「柔軟性」，「状況把握力」に関しては、自己認識をしていないが、成長しているようである。

### キーワード

正課外活動，社会人基礎力，大学教育，山口大学おもしろプロジェクト，山口大学生コンピテンシー

### 1 はじめに

大学生の学びは「学修」と表される。「習（ならう）」ではなく、「修（おさめる）」という文字が使用されていることから、大学生の学びは受動的なものでなく、主体的なものでなければならない、ということの意味している。ただし学びが主体的なものとはいえ大学生である以上、大学設置基準（文部科学省，2012）に示される「4年以上在学し、124単位以上を修得」するのに加えて、その大学が求める学生像（ディプロマ・ポリシー）に沿っておく必要がある。大学教育としては学生の主体的な学びを導くため、文部科学省（2018）に示されるように「高等教育機関がその多様なミッションに基づき、学修者が『何を学び、身に付けることができるのか』を明確にし、学修の成果を学修者が実感でき

る教育」を行っていく必要がある。これを満たすために大学がすべきことのの一つが「シラバスの作成」である。学校教育法第83条には大学の目的として「大学は、学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを目的とする」とある。また文部科学省（2008）には「学士力は自主的活動等も含む教育活動全体を通して育成」とある。さらに文部科学省（2009）には、「…豊かな人格形成に資する正課外活動を積極的に正課に取り入れる方策を検討…」とある。すなわち、大学での学びにはキャリア育成も含まれ、そのために正課外活動を積極的に取り入れるべきである、ということになる。これをふまえると大学は正課だけに尽力するのではなく正課外活動にも着目し、できるか

ぎりそのシラバスを提示することが望ましい、と捉えることができる。しかし、正課外活動のシラバスはその作成が非常に困難である。なぜならば、その学修成果の大半が、知識教授が基本である正課とは異なり、キャリア育成という客観的に判断することが非常に困難なものだからである。キャリア育成状況を客観的に捉える方法として、例えばPROGテスト（河合塾グループ）の実施などがあげられるが、これは有料であるとともにテストのために学生をある時間拘束する必要がある、こうしたテストの実施は汎用性が低い。本研究では正課外活動実施者による自己評価より、その学生の大学が求める人材像の達成状況、キャリア育成状況を定量的に分析し、正課外活動に対するシラバス作成の一助とすることを目的とする。

## 2 調査方法

### 2.1 「山口大学おもしろプロジェクト」

「山口大学おもしろプロジェクト」とは、1996年度より始まった学生の自主的・創造的企画に資金援助する学生支援プログラムであり、山口大学を代表する正課外活動の一つである。「カタチにしたい」と思う企画（プロジェクト）を年度始めに学生自らが申請し、学内教職員による選考委員が合否選考を行って、採択となった場合は1年間の活動実施資

金として最大50万円の予算枠が学生に提供される。申請する企画内容に関しては、卒業研究をはじめとする正課と関連しないものであれば基本的には制限がない。発案から実施まで教員が携わらない学生の自主的活動である。山口大学は、2016年度にこれに対してシラバスを作成して「正課外教育プログラム」として確立している。

### 2.2 「山口大学生コンピテンシー」と社会人基礎力

2014年度に山口大学は文部科学省の大学教育再生加速プログラムに採択され、アクティブラーニング推進と、学修成果の可視化を進めてきた。このプログラムの採択にともない設定されたのが「山口大学生コンピテンシー」である。「山口大学生コンピテンシー」は、『山口大学教育理念に規定された「驚き、個性、出会い、夢を発見し・はぐくみ・かたちにする人材の育成」に基づき、山口大学生が卒業時に身に付けておくべき汎用的能力（ジェネリックスキル）の規準』（山口大学、2015）である。その具体的な項目内容は表1に示すとおりである。一般に大学生に対する汎用的能力は、「学士力」（文部科学省、2008）や「社会人基礎力」（経済産業省、2006）で表現されることが多い。「学士力」は正課教育も含めた大学生活のすべてのシーンをふまえたキャリア育成の規準である。一

表1 「山口大学生コンピテンシー」と社会人基礎力の要素との対応

「山口大学生コンピテンシー」	社会人基礎力の要素
【驚き】 世界や社会にいつも驚きを感じ、過去・現在・未来に問いを発し続けます	課題発見力 発信力
【個性】 他人と競争し、打ち負かすのではなく、自分を発見し、はぐくみ、世界でたったひとつの存在になります	主体性 状況把握力
【出会い】 自分のうちに閉じこもらず、自分を超えてひとに出会い、出合いをはぐくみ、つながりを築きます	傾聴力 働きかけ力
【夢】 過去を受け継ぎ、現実をみすえながら、夢を発見し、夢をはぐくみ、夢をかたちにします	創造力 実行力

山口大学（2015）『山口大学・大学教育再生加速プログラム（YU-AP）アニュアルレポート2014』より

方で「社会人基礎力」は「専門知識、基礎学力、人間性・基本的な生活習慣」とは別にして構成、すなわち正課教育によるキャリア育成を除いたものとして構成されている。山口大学（2015）では、「山口大学生コンピテンシー」と「社会人基礎力」の要素とを対応させており、本研究では対象を正課外教育としていることから、これにならい「社会人基礎力」をキャリア育成の判断尺度として用いることとする。山口大学（2015）には、表1に示すように【驚き】は「課題発見力」と「発信力」に、【個性】は「主体性」と「状況把握力」に、【出会い】は「傾聴力」と「働きかけ力」に、そして【夢】は「創造力」と「実行力」にそれぞれ対応していると記載されている。2015年度には「山口大学生コンピ

テンシー」がさらに細分化され（山口大学、2016）、この細分化された「山口大学生コンピテンシー」にて調査票を作成した。調査票に関しては2.3節にて紹介するが、本研究にて用いた調査票の質問内容では、表1による社会人基礎力の要素との対応では十分にカバーできていないところがある。本研究で用いた調査票をもとにした「山口大学生コンピテンシー」と「社会人基礎力」の要素との対応を表2に記載した。「社会人基礎力」は12の要素より構成されているが、本研究の対応している「社会人基礎力」は11の要素である。「ストレスコントロール力」に関しては、「山口大学生コンピテンシー」にて対応する項目がないため、本研究では分析の対象としないこととした。

表2 調査にて用いられた「山口大学生コンピテンシー」と社会人基礎力の要素との対応

「山口大学生コンピテンシー」※		社会人基礎力の要素
【驚き】	【A】 驚き 驚きを大切にし、「自ら」が考え・判断・表現・行動・発言する能力を養います	主体性、実行力、課題発見力、 計画力、発信力
	【B】 チャレンジし解決する力 あらたな問題や困難にチャレンジし、解決する力を養います	主体性、実行力、 課題発見力、計画力
【個性】	【C】 個性 個性を大切にし、心身ともに豊かな人間性と『美』を発見するところをはぐみます	傾聴力、柔軟性、状況把握力
	【D】 自分を活かす力 専門家としての知識や能力を身につけ、自分を活かす力を養います	主体性、実行力、計画力
【出会い】	【E】 出会いと交流 出会いと交流の中で、歴史と伝統を重んじつつ、異文化を受け入れるところを養い、地域社会と国際社会への責任感や義務感を培います	働きかけ力、傾聴力、柔軟性、 状況把握力、規律性
	【F】 専門分野を超えて考え行動する力 専門性を活かし、さらに分野を超えて、人々の幸せや社会・環境全体のあるべき姿について、考え行動する力をはぐみます	課題発見力、計画力、創造力、 傾聴力、柔軟性、状況把握力
【夢】	【G】 夢 夢を描き続け、自らが生涯を通じての『知の探求者』になる「礎」を築きます	主体性、実行力、課題発見力、 計画力、創造力
	【H】 世界にはばたいて活躍する力 国を超えた多くの人々と出会い、世界にはばたいて活躍する力をはぐみます	傾聴力、柔軟性、状況把握力、 規律性

※：山口大学（2016）『山口大学・大学教育再生加速プログラム（YU-AP）アニュアルレポート2015』より

### 2.3 調査票

調査票では「山口大学生コンピテンシー」の文章をもとに、その項目に対応した「すべきこと」を設定した（参照，資料1）。調査票における「山口大学生コンピテンシー」に対応する「すべきこと」の一覧は表3のとおりである。調査対象者は、各「すべきこと」に対して、（1）十分できていない、（2）ある程度できている、（3）積極的にできている、（4）積極的にできているとともに他者にもそれを促す行動ができている、の4段階で回答する形式を調査票ではとった。（4）の回答には、社会人基礎力の要素である「働きかけ力」と「発信力」もできているか、が付け加えられていることになる。調査票は「自己評価シート」と名付けており、記入者が現時点での自己の到達度合を確認しながら、「ふりかえり」が行えるようにループリック（ダネルほか，2014）を意識して設計された。また調査票は「自己評価シート」であることから記名式のものとなっている。

### 2.4 調査方法

調査は、調査票を2018年度に「山口大学おもしろプロジェクト」に採択された企画グル

ープ（山口大学おもしろプロジェクトHP）の全構成員に配布し、その記入を求めることで実施した。調査は、プロジェクト開始時である2018年6月下旬、およそプロジェクト中盤である10月下旬、プロジェクト終了時である2019年3月下旬の計3回実施した。記入者には前回および前々回に自身が記入した結果を知らせずに各調査は実施された。このうち本研究では第1回目と第3回目の調査結果を用いて分析を行う。第1回目と第3回目の調査にて得られた各質問項目における有効回答数を表4に示す。

## 3 結果および考察

### 3.1 第3回目調査における「山口大学生コンピテンシー」の各項目結果

表5に第3回目調査に基づく「山口大学生コンピテンシー」の各項目の自己評価結果を示す。いずれの数値も「ある程度できている」を意味する2を超えており、調査対象者はとりあえず「山口大学生コンピテンシー」を満たしていると自己評価していることになる。表6は「山口大学生コンピテンシー」の各項目間の数値差に関してt検定を用いて検定し

表3 「山口大学生コンピテンシー」の各項目の達成に対して「すべきこと」

「山口大学生コンピテンシー」の項目	「すべきこと」
【A】 驚き	「自ら」が考え、判断・表現・行動・発言すること
【B】 チャレンジし解決する力	あらたな問題や困難にチャレンジして解決すること
【C】 個性	個性や人間的魅力を発見すること
【D】 自分を活かす力	自身が専門的知識や能力を身につけること
【E】 出会いと交流	様々な人と出会い交流を持つこと
【F】 専門分野を超えて考え行動する力	自身と他者の専門分野を融合しながら考えること
【G】 夢	自身の将来の夢を描いていこうとする意志の育成
【H】 世界にはばたいて活躍する力	国際的な視野を持つこと

表 4 調査における有効回答数

「山口大学生コンピテンシー」 の項目名	第 1 回目 調査	第 3 回目 調査	両調査 共通
【A】 驚き	144	113	95
【B】 チャレンジし解決する力	144	113	95
【C】 個性	144	113	95
【D】 自分を活かす力	144	113	95
【E】 出会いと交流	143	113	94
【F】 専門分野を超えて考え行動する力	144	112	94
【G】 夢	144	113	95
【H】 世界にはばたいて活躍する力	144	113	95

(単位：件)

第 1 回目調査は 2018 年 6 月下旬，第 3 回目調査は 2019 年 3 月下旬に実施  
両調査共通とは，第 1 回目と第 3 回目の両方の調査を共に回答している者

た結果である。最も低い数値を示した「【H】  
世界に羽ばたいて活躍する力」は他の 7 つの  
項目の数値といずれも有意差が得られた  
( $p < 0.01$ )。2018 年度に採択された企画のほ  
とんどは「国際的視野の育成」をその目的と  
していないことから，このような結果になっ  
たと考えられる。最も高い数値となった

表 5 「山口大学生コンピテンシー」の各項  
目の自己評価結果

「山口大学生コンピテンシー」 の項目	平均値
【A】 驚き	2.66
【B】 チャレンジし解決する力	2.58
【C】 個性	2.62
【D】 自分を活かす力	2.72
【E】 出会いと交流	2.75
【F】 専門分野を超えて考え行動する力	2.60
【G】 夢	2.63
【H】 世界にはばたいて活躍する力	2.21

「【E】 出会いと交流」は，「【G】 夢」，  
「【C】 個性」，「【F】 専門分野を超えて  
考え行動する力」の 3 者とは危険率 10%とし  
て，また「【B】 チャレンジし解決する力」  
とは危険率 5%として有意差が認められた。  
次に高い数値であった「【D】 自分を活かす  
力」は「【F】」とは危険率 10%として，  
「【B】」とは危険率 5%として有意差が認  
められた。3 番目に高い数値であった「【A】  
驚き」は「【B】」と危険率 10%として有意  
差が認められた。この結果から，数値が高い  
傾向にある群は「【E】」，「【D】」，  
「【A】」の 3 者となるように思われる。本  
研究にて得られたデータ数は 100 件程度とま  
だまだ少なかつたため，あまり用いられない  
危険率 10%としての有意差を考慮している。  
より多くのデータを取得することにより，よ  
り明確な数値の高低に関する群分けが行える  
であろう。

3.2 「山口大学生コンピテンシー」の各項  
目における第 1 回目と第 3 回目の変化  
表 7 は第 1 回目と第 3 回目調査における

表6 「山口大学生コンピテンシー」各項目間の数値差に関するt検定結果

	【E】	【D】	【A】	【G】	【C】	【F】	【B】	【H】
【E】	—			p<0.10	p<0.10	p<0.10	p<0.05	p<0.01
【D】		—				p<0.10	p<0.05	p<0.01
【A】			—				p<0.10	p<0.01
【G】				—				p<0.01
【C】					—			p<0.01
【F】						—		p<0.01
【B】							—	p<0.01
【H】								—

注： アルファベットは「山口大学生コンピテンシー」の項目名を意味しており，表3などと対応している

表7 「山口大学生コンピテンシー」各項目における第1回目調査と第3回目の変化

	全数 <sup>*1</sup> 第1回目 平均	全数 第3回目 平均	全数 両平均の 差	共通 <sup>*2</sup> 第1回目 平均	共通 第3回目 平均	共通 両回の差 の平均	共通の 検定 結果
【A】	2.63	2.66	0.03	2.53	2.71	0.18	
【B】	2.65	2.58	-0.07	2.60	2.62	0.02	
【C】	2.60	2.62	0.02	2.53	2.63	0.11	
【D】	2.63	2.72	0.09	2.54	2.74	0.20	p<0.10
【E】	2.67	2.75	0.08	2.61	2.76	0.15	
【F】	2.39	2.60	0.21	2.24	2.65	0.40	p<0.01
【G】	2.63	2.63	-0.00	2.54	2.65	0.12	
【H】	2.38	2.21	-0.16	2.28	2.16	-0.13	

※1： 全数とは回答のあった全てのデータ

※2： 共通とは第1回目と第3回目の両方の調査を共に回答している者のデータ

注： アルファベットは「山口大学生コンピテンシー」の項目名を意味しており，表3などと対応している

「山口大学生コンピテンシー」各項目の変化を示している。得られたデータ全てによる平均値の比較として，「【B】チャレンジし解決する力」，「【G】夢」，「【H】世界に羽ばたいて活躍する力」の3者は第3回目の数値が第1回目の数値を下回る結果となった。これは，第1回目において高い数値を記入した調査対象者が第3回目の調査票を提出しなかったこと，調査対象者は前回の自身の記入結果を知らされていないことがその要因と考

えられる。得られたデータ全てによる平均値に関してt検定を用いて検定したところ，いわゆる「対応なし」にて平均値の大小に関する検定をおこなったところ，「【F】専門分野を超えて考え行動する力」のみ危険率10%として有意差が認められた。本調査の「対応なし」による分析では，第1回目と第3回目との結果の間の明確な差をあまり見出だすことができなかったと言える。「対応なし」にて分析を進めるためには追加のデータを取得

する必要がある。次に、第1回目と第3回目の両方の調査票を提出した調査対象者の結果の比較に関してt検定を用いて検定したところ、いわゆる「対応あり」にて第1回目と第3回目との差に関する検定を行ったところ、「【D】自分を活かす力」は危険率10%として、「【F】」は危険率1%として有意差が認められた。すなわち「山口大学生コンピテンシー」における「【F】」はおよそ1年の間に調査対象者の明らかな成長が見られ、「【D】」に関しても成長が考えられる、という結果であった。また、有意な差は認められなかったが、「【H】」を除いていずれの項目においても第3回目の数値が第1回目の数値を上回っている。前回の自身の記入結果を知らされていない状況でのこの結果は、個人のキャリア成長が真に進んでいることが示唆しているように思われる。追加の調査を行うことにより、これは明らかになるだろう。

### 3.3 「山口大学生コンピテンシー」から社会人基礎力への変換

3.1節より「山口大学コンピテンシー」の「【E】出会いと交流」, 「【D】自分を活かす力」, 「【A】驚き」の3者は、他の項目と比較して高くなる傾向にあることが示唆された。これを表2に示した社会人基礎力の要素に置き換えると「創造力」を除く10の要素が該当することとなる。すなわち一般的なキャリア育成の指標である社会人基礎力のどの要素が高くなっているのかが明確にはなっていない。また2.3節にて述べたように調査票の各設問において(4)を選択した場合には、社会人基礎力における「働きかけ力」と「発信力」ができていると自己評価したことになる。表5や表7に示すように調査票の8項目に関して、いずれも平均値が3を下回っていた。よってこの結果からのみで判断すると「働きかけ力」や「発信力」はおおよそ「できていない」ということになる。ちなみに第3回目の調査にて設問に対して(4)と回答

したものは、各設問とも20名程度(回答者の20%弱)であった。このように本研究結果から一般的なキャリア育成状況を判断するためには「山口大学生コンピテンシー」を社会人基礎力に変換することが必要である。

本研究では表2に示すように「山口大学生コンピテンシー」の各項目に対して社会人基礎力の11要素を対応させている。この対応をもとに調査票の結果を社会人基礎力の11要素に変換した。「山口大学生コンピテンシー」の各項目に対応している社会人基礎力の要素は複数設定している。実際には複数設定した社会人基礎力の要素はそれぞれに寄与率があり、対象とする「山口大学生コンピテンシー」の項目を構成していると思われる。しかし本研究ではその寄与率が不明であることから、複数の社会人基礎力の要素が設定されているものに関してはその寄与率が等分になると仮定した。また、同じ社会人基礎力の要素が複数の「山口大学生コンピテンシー」の項目に設定されていることから、「山口大学生コンピテンシー」の各項目から算出された社会人基礎力の要素の総和が最大で1となるように、算出される社会人基礎力の総和の最大値で除した。表8は、「山口大学生コンピテンシー」から社会人基礎力に変換するとき用いられた係数の一覧である。3.1節にて記したように「【H】世界に羽ばたいて活躍する力」は調査対象者が実践した企画のほとんどが「国際的視野の育成」をその目的としていなかったことから、社会人基礎力の変換には用いないこととした。また「主体性」と「実行力」, 「働きかけ力」と「規律性」, 「傾聴力」と「柔軟性」と「状況把握力」はそれぞれ同値となる。「山口大学生コンピテンシー」に関する回答結果に、対応する係数を乗じ、表の縦方向に総和することで社会人基礎力の各要素に関する値に変換することができる。社会人基礎力の各要素の最大値は上記から分かるように1であり、最小値は0.25となる。

表8 「山口大学生コンピテンシー」から社会人基礎力に変換するときを用いた係数

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	主体性 実行力	働きかけ力 規律性	課題発見力	計画力	創造力	発信力	傾聴力 柔軟性 状況把握力
【A】	$\frac{3}{59}$		$\frac{3}{49}$	$\frac{1}{23}$		$\frac{1}{4}$	
【B】	$\frac{15}{236}$		$\frac{15}{196}$	$\frac{5}{92}$			
【C】							$\frac{5}{42}$
【D】	$\frac{5}{59}$			$\frac{5}{69}$			
【E】		$\frac{1}{4}$					$\frac{1}{14}$
【F】			$\frac{5}{98}$	$\frac{5}{138}$	$\frac{5}{44}$		$\frac{5}{84}$
【G】	$\frac{3}{59}$		$\frac{3}{49}$	$\frac{1}{23}$	$\frac{3}{22}$		

注： アルファベットは「山口大学生コンピテンシー」の項目名を意味しており、表3などと対応している

### 3.4 第3回目調査における社会人基礎力の各要素の結果

表9は第3回目調査に基づく社会人基礎力の各要素の結果である。また表10は各要素間の数値差に関してt検定を用いて検定した結果である。なお用いたデータ数は「山口大学生コンピテンシー」の8項目全てを回答したものが対象となるので、表9と表10の第3回目に関しては112件、表10の第1回目は143件、表10の「共通（参照、表10の注釈）」は93件となる。最も高い数値を示したのは「②働きかけ力・規律性」であり、「⑦傾聴力・柔軟性・状況把握力」、「⑤創造力」、および「③課題発見力」の3者と危険率5%として有意差が認められた。また「④計画力」とは危険率10%ではあるが有意差が認められた。低い数値となった「③」に関しては、「①主体性・実行力」と「④」の2者と危険率10%

ではあるが有意差が認められた。これより数値が高い傾向にある群は「②」、「①」、「⑥発信力」の3者であり、「③」は他の要素と比較すると高くない傾向にあるように思われる。「規律性」や「発信力」は社会人基礎力においてチームワークを構成する要素である。また「発信力」は「コミュニケーション

表9 社会人基礎力の各要素の自己評価結果

①主体性・実行力	0.663
②働きかけ力・規律性	0.685
③課題発見力	0.654
④計画力	0.661
⑤創造力	0.652
⑥発信力	0.667
⑦傾聴力・柔軟性・状況把握力	0.662



表 10 社会人基礎力各要素間の数値差に関する t 検定結果

	②	①	⑥	④	⑦	⑤	③
②	—			p<0.10	p<0.05	p<0.05	p<0.05
①		—					p<0.10
⑥			—				
④				—			p<0.10
⑦					—		
⑤						—	
③							—

注：丸で囲まれた数字は社会人基礎力の要素名を意味しており，表 8 などと対応している

ン力」の一端である。これをふまえると辻（2012）の，山口大学おもしろプロジェクトの参加学生はコミュニケーション力や実行力，チームワークの成長を自覚できるであろう，という点や，課題探究力は他と比較してそれほど成長を自覚できないだろう，という結果とおよそ合致したものとなった。また，先の分析では不明であった「働きかけ力」についても調査対象者は，他の社会人基礎力の要素と比べると高くなることが示唆された。

### 3.5 社会人基礎力の各要素における第 1 回目と第 3 回目の変化

表11は第 1 回目と第 3 回目調査における社会人基礎力の各要素の変化を示している。いずれの数値も第 3 回目の調査結果が第 1 回目のものより大きくなっている。「対応なし」にて両者の大小を t 検定にて検定を行ったところ，いずれの要素も有意差を認めることができなかった。しかし「対応あり」にて検定を行ったところ，「⑤創造力」および「⑦傾聴力・柔軟性・状況把握力」に関しては危険

表 11 社会人基礎力各要素における第 1 回目調査と第 3 回目の変化

	全数 <sup>※1</sup> 第 1 回目 平均	全数 第 3 回目 平均	全数 両平均の 差	共通 <sup>※2</sup> 第 1 回目 平均	共通 第 3 回目 平均	共通 両回の差 の平均	共通の 検定 結果
①	0.657	0.663	0.006	0.637	0.671	0.034	
②	0.668	0.685	0.017	0.653	0.685	0.032	
③	0.645	0.654	0.009	0.622	0.665	0.043	p<0.10
④	0.649	0.661	0.012	0.625	0.670	0.045	p<0.10
⑤	0.630	0.652	0.022	0.599	0.663	0.064	p<0.05
⑥	0.656	0.667	0.011	0.632	0.680	0.048	
⑦	0.642	0.662	0.020	0.619	0.668	0.048	p<0.05

※1：全数とは回答のあった全てのデータ

※2：共通とは第 1 回目と第 3 回目の両方の調査を共に回答している者のデータ

注：丸で囲まれた数字は社会人基礎力の要素名を意味しており，表 8 などと対応している

率 5%にて、「③課題発見力」と「④計画力」に関しては危険率 10%ではあるが有意差を認めることができた。「⑤創造力」および「⑦傾聴力・柔軟性・状況把握力」は第3回目の調査結果の数値としては高い傾向にある群の要素ではない。すなわち、「創造力」, 「傾聴力」, 「柔軟性」, 「状況把握力」の要素は自己認識としてはあまりないが、「山口大学おもしろプロジェクト」の期間中に成長した要素である, ということになる。

#### 4 まとめ

山口大学の正課外活動の一つである「山口大学おもしろプロジェクト」の 2018 年度に採択された企画の構成員に「山口大学コンピテンシー」の達成度に関して調査を行った。その結果、「山口大学コンピテンシー」の 8 つの項目すべてにおいて, ある程度できている, というものであった。特に 8 つの項目中, 「出会いと交流」, 「自分を活かす力」, 「驚き」の 3 項目が他の 5 つの項目と比較して高くなる傾向にあるようである。また「専門分野を超えて考え行動する力」に関しては 1 年間で成長の変化がある, ということが明らかとなった。

「山口大学コンピテンシー」の各項目を社会人基礎力の「ストレスコントロール力」以外の 11 要素を対応させて, キャリア育成の状況を判断した。その結果, 「働きかけ力」, 「規律性」, 「主体性」, 「実行力」, 「発信力」の 5 要素に関しては他の要素と比較して高いと自己認識できるようである。また, 「創造力」, 「傾聴力」, 「柔軟性」, 「状況把握力」の 4 要素に関しては, 自己認識をしていないが, 成長しているようである。

「山口大学おもしろプロジェクト」の活動期間は 1 年間あり, 調査対象者はその間にサークル活動やアルバイトなどを代表に様々な正課外活動を行っていることが予想される。よって本研究結果が「山口大学おもしろプロ

ジェクト」の教育成果に完全に起因しているとは言えない。とはいえ, 調査票が「山口大学おもしろプロジェクト自己評価シート」と銘打っていることから, 調査対象者は「山口大学おもしろプロジェクト」を意識しながら記入していると思われ, 全く関係していないとも言い難い。特定した正課外活動によるキャリア育成状況, すなわち教育効果を判断するには, さらなる調査が必要である。ただし少なくとも「山口大学おもしろプロジェクト」に参加した学生は, 大学が設定したコンピテンシーを十分ではないが身に付けることができているのは明らかである。よって, 「山口大学おもしろプロジェクト」は大学として有意義な正課外活動, 正課外教育と行うことができるだろう。そして本研究結果をもとに「山口大学おもしろプロジェクト」の 2016 年度に作成したシラバスを修正することができるようになった。本研究のような調査は, 大学教育として有意義な正課外活動を判断する上で, また正課外活動のシラバスを作成するうえで必要なものと考える。

(学生支援センター 講師)

---

#### 【参考文献】

- (1) ダネルスティーブンス他, 2014, 『大学教員のためのルーブリック評価入門 (高等教育シリーズ)』玉川大学出版部。
- (2) 河合塾グループ, 「PROG/教育研究開発活動」, <https://www.kawaijuku.jp/jp/research/prog/> (2020/01/12 最終アクセス)。
- (3) 経済産業省 (経済産業政策局), 2006, 『社会人基礎力に関する研究会～中間とりまとめ～』。
- (4) 文部科学省 (中央教育審議会), 2008, 『学士課程教育の構築に向けて

- (答申)』.
- (5) 文部科学省 (大学教育の検討に関する作業部会学生支援検討ワーキンググループ第4回), 2009, 『学生支援の在り方に関する論点整理 (案)』.
  - (6) 文部科学省, 2012, 『大学設置基準』.
  - (7) 文部科学省 (中央教育審議会), 2018, 『2040年に向けた高等教育のグランドデザイン (答申)』.
  - (8) 辻多聞, 2012, 「PBLによる大学生の成長とそれに伴う大学教育の在り方～山口大学と同志社大学でのアンケート結果をもとに～」『大学教育』7, 16-25.
  - (9) 山口大学, 2015, 『山口大学・大学教育再生加速プログラム (YU-AP) アニュアルレポート 2014』.
  - (10) 山口大学, 2016, 『山口大学・大学教育再生加速プログラム (YU-AP) アニュアルレポート 2015』.
  - (11) 山口大学おもしろプロジェクト HP, 「年次報告書／2018年度の中間報告」, <http://ssct.oue.yamaguchi-u.ac.jp/omoprohp/report/2018mid.html> (2020/01/12 最終アクセス) .

資料 1 調査対象者に配布された調査票（第 3 回目調査時のもの）

第 23 回山口大学おもしろプロジェクト'18 自己評価シート③

ホームページなどで紹介されてもっていますが、「おもしろプロジェクト」はシラバスがある「正課外教育プログラム」に位置付けられています。自身を見つめ直す機会として、また「正課外教育プログラム」に関する分析や改善のため、下記質問へご回答ください。なお本結果を研究結果として公表する可能性があることをご了承ください。（学生支援センター：辻 多聞）

プロジェクト名： \_\_\_\_\_  
 学部・学年： \_\_\_\_\_ 学部（研究科） \_\_\_\_\_ 年  
 名前： \_\_\_\_\_

1. 次の【A】～【H】に対して、1～4の中であてはまるものを一つだけ選択し番号を丸で囲んでください。また1～4の下に記載される「●」の質問に対して、A～Eの中で一つだけ選択し丸で囲んでください。なお「●」の質問において「成長」という表現を使っていますが、前回の自身の回答内容を気にする必要はありません。

- 【A】驚き（驚きを大切に、「自ら」が考え・判断・表現・行動・発言する能力を養います）**
- 「自ら」が考え、判断・表現・行動・発言することはあまり必要ではない、または必要とは思って十分できていないと思う
  - 「自ら」が考え、判断・表現・行動・発言することは必要だと思うし、ある程度できているように思う
  - 「自ら」が考え、判断・表現・行動・発言することは必要だと思うし、積極的にできているように思う
  - 「自ら」が考え、判断・表現・行動・発言することは必要だと思うし、自らがそれを積極的にするだけでなく、他者にもそれを促す様な行動ができていると思う
- 【A】の項目の成長に関して、自身のおもしろプロジェクト活動はどの程度関係していると思いますか  
 A じゅうぶんに イ ある程度は ウ それ程ではない E ほとんどまたは全くない
- 【B】チャレンジし解決する力（あらたな問題や困難にチャレンジし、解決する力を養います）**
- あらたな問題や困難にチャレンジして解決することはあまり必要ではない、または必要とは思って十分できていないと思う
  - あらたな問題や困難にチャレンジして解決することは必要だと思うし、ある程度できているように思う
  - あらたな問題や困難にチャレンジして解決することは必要だと思うし、積極的にできているように思う
  - あらたな問題や困難にチャレンジして解決することは必要だと思うし、自らがそれを積極的にするだけでなく、他者にもそれを促す様な行動ができていると思う
- 【B】の項目の成長に関して、自身のおもしろプロジェクト活動はどの程度関係していると思いますか  
 A じゅうぶんに イ ある程度は ウ それ程ではない E ほとんどまたは全くない
- 【C】個性（個性を大切に、心身ともに豊かな人間性と『美』を発見するところをほくみます）**
- 個性や人間的魅力を発見することはあまり必要ではない、または必要とは思って十分できていないと思う
  - 個性や人間的魅力を発見することは必要だと思うし、ある程度できているように思う
  - 個性や人間的魅力を発見することは必要だと思うし、積極的にできているように思う
  - 個性や人間的魅力を発見することは必要だと思うし、自らがそれを積極的にするだけでなく、他者にもそれを促す様な行動ができていると思う
- 【C】の項目の成長に関して、自身のおもしろプロジェクト活動はどの程度関係していると思いますか  
 A じゅうぶんに イ ある程度は ウ それ程ではない E ほとんどまたは全くない
- 【D】自分を活かす力（専門家としての知識や能力を身につけ、自分を活かす力を養います）**
- 自身が専門的知識や能力を身につけることはあまり必要ではない、または必要とは思って十分できていないと思う
  - 自身が専門的知識や能力を身につけることは必要だと思うし、ある程度できているように思う
  - 自身が専門的知識や能力を身につけることは必要だと思うし、積極的にできているように思う
  - 自身が専門的知識や能力を身につけることは必要だと思うし、自らがそれを積極的にするだけでなく、他者にもそれを促す様な行動ができていると思う
- 【D】の項目の成長に関して、自身のおもしろプロジェクト活動はどの程度関係していると思いますか  
 A じゅうぶんに イ ある程度は ウ それ程ではない E ほとんどまたは全くない
- 【E】出会いと交流（出会いと交流の中で、歴史と伝統を重んじつつ、異文化を受け入れるところを養い、地域社会と国際社会への責任感や義務感を培います）**
- 様々な人と出会い交流を持つことはあまり必要ではない、または必要とは思って十分できていないと思う
  - 様々な人と出会い交流を持つことは必要だと思うし、ある程度できているように思う
  - 様々な人と出会い交流を持つことは必要だと思うし、積極的にできているように思う
  - 様々な人と出会い交流を持つことは必要だと思うし、自らがそれを積極的にするだけでなく、他者にもそれを促す様な行動ができていると思う
- 【E】の項目の成長に関して、自身のおもしろプロジェクト活動はどの程度関係していると思いますか  
 A じゅうぶんに イ ある程度は ウ それ程ではない E ほとんどまたは全くない
- 【F】専門分野を超えて考え行動する力（専門性を活かし、さらに分野を超えて、人々の幸せや社会・環境全体のあるべき姿について、考え行動する力をほくみます）**
- 自身と他者の専門分野を融合しながら考えることはあまり必要ではない、または必要とは思って十分できていないと思う
  - 自身と他者の専門分野を融合しながら考えることは必要だと思うし、ある程度できているように思う
  - 自身と他者の専門分野を融合しながら考えることは必要だと思うし、積極的にできているように思う
  - 自身と他者の専門分野を融合しながら考えることは必要だと思うし、自らがそれを積極的にするだけでなく、他者にもそれを促す様な行動ができていると思う
- 【F】の項目の成長に関して、自身のおもしろプロジェクト活動はどの程度関係していると思いますか  
 A じゅうぶんに イ ある程度は ウ それ程ではない E ほとんどまたは全くない
- 【G】夢（夢を描き続け、自らが生涯を通じての『知の探求者』になる「礎」を築きます）**
- 自身の将来の夢を描いていこうとする意志の育成はあまり必要ではない、または必要とは思って十分できていないと思う
  - 自身の将来の夢を描いていこうとする意志の育成は必要だと思うし、ある程度できているように思う
  - 自身の将来の夢を描いていこうとする意志の育成は必要だと思うし、積極的にできているように思う
  - 自身の将来の夢を描いていこうとする意志の育成は必要だと思うし、自らがそれを積極的にするだけでなく、他者にもそれを促す様な行動ができていると思う
- 【G】の項目の成長に関して、自身のおもしろプロジェクト活動はどの程度関係していると思いますか  
 A じゅうぶんに イ ある程度は ウ それ程ではない E ほとんどまたは全くない
- 【H】世界にはばたいて活躍する力（他国を超えた多くの人々と出会い、世界にはばたいて活躍する力をほくみます）**
- 国際的な視野を持つことはあまり必要ではない、または必要とは思って十分できていないと思う
  - 国際的な視野を持つことは必要だと思うし、ある程度できているように思う
  - 国際的な視野を持つことは必要だと思うし、積極的にできているように思う
  - 国際的な視野を持つことは必要だと思うし、自らがそれを積極的にするだけでなく、他者にもそれを促す様な行動ができていると思う
- 【H】の項目の成長に関して、自身のおもしろプロジェクト活動はどの程度関係していると思いますか  
 A じゅうぶんに イ ある程度は ウ それ程ではない E ほとんどまたは全くない

（裏へつづく）